

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(東)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一期一会の理念を基に、ご利用者第一にご利用者それぞれの課題をスタッフ全員で検討し、共有する事で自立支援を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人体制の変更という変革期の中で、前理事長の思いを引き継ぎ、管理者を中心としてチームとして明るくケアにまい進している。これまでの地域への啓発が行き届いたことも近からの入居の多さに表われ、コロナ禍に地域住民からの励ましの言葉が職員へモチベーションとして生かされ、地域のために神社へ椅子を寄贈する等地域とともにあるホームが築かれている。入居して落ち着いた生活ぶりに職員の持つケア姿勢が表われ、「白梅の里便り」の継続した発行や担当職員からの手紙等が家族との関係継続や不安払拭として生かされ、家族からの絶大な信頼を得たホームである。「明るく 感謝素直」としての規範が日常の様子に表出していることも特筆できる一つであり、コロナ禍にあっても歌って過ごせる環境を作り、食では特別感を出す等創意工夫が随所に表われている。関係医療機関との連携により高齢化・重度化傾向の中、「病気でもホームで今の生活を続けたい」とする入居者の思いに寄り添い、主治医との連携や職員同士がチームとして関わる等安心して過ごせる環境が築かれており、一期一会とする理念が今後もホーム運営に生かされるであろうと大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会の理念を共有して介護、介助に努めている。	開設当初からの理念である“一期一会”を基に、ご縁を大切にすることや、入居者一人ひとりに合わせた寄り添いのケア、専門職として研鑽することなど具現化して示している。現状として外部へ出向くことが難しいがオンラインでの研修や、日々明るくケアに努める姿勢に理念を的確に捉えていることが表われている。定例会議でも年に1回は理念を想起させて話し合い、「明るく・感謝・素直」等を規範として挙げ、日々のケアに直結させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、行事が中止になっているが、地区分別資源ゴミ日等積極的に参加協力している。	例年であれば地域の中での散歩や、子ども会との夏祭り、地域交流室を活用した臨床美術での交流等充実した地域の中での生活であったが、コロナ感染症により行事等を中止せざるを得ない状況である。行事での交流は出来ないが、近隣住民との歓談や、ゴミ出し当番、子ども110番の受託による見守り等を行っている。また、区長からの情報により神社へベンチを寄贈する等地域と繋がりがながら基盤を築いている。	コロナ感染症の状況次第では、ホームに地域住民や子どもたちが集える場として大いに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や活動報告をして認知症についての理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、なかなか開催出来なかったが、資料は毎回送付して、現状報告や活動報告をしている。	コロナ感染症のレベルにより書面審議とした回や、運営推進会議メンバーと顔を合わせた話し合い等状況を見極めて開催している。このホームの運営推進会議の特徴として地域包括支援センター、交番、区長、老人会長、各地域の民生委員とメンバー構成が充実していることが挙げられる。地域の情報リサーチとして生かされ、ホームから神社へのベンチ寄贈に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き相談、助言して頂き協力して頂いている。	運営推進会議での助言や、市からの出前講座の活用による職員のスキルアップ、成年後見制度での社協との協働、介護認定更新時の情報交換等協力関係を築いている。また、不明な点等は担当者に相談し、適切なアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	トップが声をあげて身体拘束をしない方針である、身体拘束に関するオンライン研修に参加したり、施設内でも勉強会を開催している。	身体拘束適正化の中で定期的に学ぶ機会を作り、グレーゾーン等不適切なケアや声掛け方法等を検討している。転倒予防としてのセンサーマット使用は、家族から承諾を得ているが毎月センサーマットの使用をやめる為の工夫点等を話し合っている。また、帰宅願望等個々の状況を把握し、一緒に庭先に出たり、ホーム内を職員が一緒に歩き、家族に会えない事でのストレス軽減に努めている。	管理者は、言葉使いや尊厳について気になる場合には随時注意喚起されている。グレーゾーンも考える必要もあると認識されており、職員同士が注意しあえる環境作りに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を呼び勉強する事で理解、防止に努めている。常に振り返り皆で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の出前講座を利用したりして勉強している。研修に参加したらその情報の共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約はもとより、改定等もご利用者やご家族が納得いくまで説明を行い、同意を得てから契約を結んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は、日々生活の中での意見や要望を聴き取り反映している、家族は、面会時担当者会議の時、意見や要望を確認しあっている。	入居者には寄り添いながら希望などを聞き取りしている。家族には契約時に面会も兼ねて利用料金の持参を依頼している。毎日の訪問される家族、及び毎月訪問される家族には近況報告や衣類等の不足などを説明し、要望等を引き出している。ラインを活用した情報の発信や、白梅便りに手紙をしたため郵送し家族への安心に繋げたり、何事も家族の立場に立って検討している。	例年であれば家族会や運営推進会議を通じて家族の意見や要望を収集していたが、コロナ禍で開催出来る状況にない。コロナ感染症の収束により、家族会等が再開されるであろうと大いに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の場で、活発に意見できる環境作りに努めている。	管理者は、現場に入りながら職員の意見等を聞き取りし、職員と共に考えながらケアサービスの向上に繋げている。朝・夕の申し送りやテーマを決めて開催する勉強会及び定例会議等意見や要望等言える環境が作られている。また、管理者は職員の表情等いつもの違いに声を掛け悩み等の相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設ける、勤務希望、シフト、労働時間等考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修に参加して頂き、施設内の勉強会の内容などスタッフ間で決めて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会議へのオンライン参加での意見交換などの情報を共有し、交流を深め介護サービス向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からご本人の情報を収集して、入居後もアセスメントを行いご本人の思いに寄り添う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の要望、困っている事を傾聴し、入居者も現状報告をして何でも話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族がどのようなサービスを求めているか聞き取り、施設での最高のサービスが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者・職員ともに生活の場と捉え、個別対応を行い共に対等の立場で生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者・ご家族・職員が共に思いを共有し話し合いながら支援に生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であっても、ご本人やご家族と話し合いご面会して頂いている。	ホーム近くからの入居者も多く、この場所そのものが馴染みの場所である。昔からの友人から入居者に合わせて欲しいとの連絡を受け、一時緩和した際に訪問されたケースや、毎日訪問されるご家族(窓越し面会)、かかりつけ医の継続、携帯電話を持込み家族との会話を楽しみとされる等人との繋がりを大切にされている。入居者同士や職員との関係も馴染みの関係にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握してテーブルの席、ソファの位置など気持ちよく過ごして頂ける様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、病院や他の施設に面会に行ったり、亡くなられた入居者のご家族とも繋がりを継続している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様からの意向、希望を聞きとり、思いを実現する為にかかりつけ医等の協力を得て取り組んでいる。	職員は日々入居者に寄り添い、食べたい物等好き嫌いを直接職員に話をされたり、発語困難や発語が少ない方等には行動・表情での推察や、うなずきやうん等も返答として判断したり、笑顔もバロメーターとして捉えている。また、発語不明確であっても感情はあるとして、喜ばれるような言葉がけを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を聞き取り、フェイスシートを作成しケアプランに反映している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の状態を24時間シート、個人記録に記入して申し送り、情報共有を図っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向や希望を聴くと共に、スタッフには気付きを書いてもらいケアプランに反映させている。変化がみられたらプラン変更している。	本人や家族の意向をもとに、職員全員に意見を求め、プラン作成に反映させている。認知症の進行に伴うモニタリングや介護保険更新時の見直し、心身の変化により見直し等現状に即したプランを作成している。また、家族にはラインで連絡し合い、安心してゆっくり過ごしてもらうようなプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、個人記録に日々の状態を記録し、必要な申し送りノートにも記入して情報の共有を行い、チームケアを行っている。ケアプラン見直しにも反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で、いろんな事が取り止めにあったが、病院受診同行支援の際、車窓からではあるが、家やお墓の近くまでドライブする。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが落ち着いた時期に馴染みの美容院に出かけて頂く(美容院の方の送迎あり)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、急な体調の変化に応じて相談して受診往診受けられるように支援している。歯科も同様である。	協力医療機関を中心に、希望するかかりつけ医の定期往診を支援し、特診が必要な場合には主治医の紹介により家族の対応とする等医療に関しては固定せず、本人や家族の意向を尊重している。また、職員は日々バイタルチェックを徹底し、異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化に気づき、かかりつけ医に相談し指示通りにケアを行っている。必要があれば、受診や往診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要な情報を提供し入院中のカンファレンス出席やMSWとの情報の交換や退院後の対応支援など、相談できる関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に家族に急変時や重度化対応、終末期のあり方などを説明させて頂いている。段階に応じてかかりつけ医と連携を取りながら話し合いを重ねている。	重度化及び看取り指針を基に基本的な考え方や対応のあり方等を説明し、入居者の状態変化に主治医の意見を仰ぎ必要な時点で家族の意向を確認し、医療行為が出来ないことを納得してもらい、同意書を交わしている。終末期ケア研修の開催や、これまでにかかりつけ医や家族及び職員がチームとして看取りケアを行った事例もある。	入居者の好きな歌を全員で口ずさみ、お見送りした事例等その人らしい最期を支援し、忍びのカンファレンスが行われている。今後も、入居者や家族の思いに寄り添った支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急やAEDの使用法について、施設内研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時避難訓練で、どの様に、どこに避難するか利用者と共に訓練を行っている。	防災の日(9月1日)の意識付けとして手作り防災頭巾を使用し地震を想定した訓練を実施している。例年であれば、地域との協力による訓練が出来ていたが、コロナ禍により難しい状況にあり、「何かあれば直ぐにかけつけます。」と区長からは力強い言葉を受けている。備蓄は、大風等予測できるものについてはその都度準備し、普段から水や米を切らさないよう管理している。	現在ホーム近くの高台を有事の際の避難場所としているが、避難中の安全性等から地元の小学校を検討したいとしており、行政との話し合いに期待したい。また、時期を見て地域との合同訓練(コロナ感染症の収束が見えた場合)の検討に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳をもって、言葉かけや対応を行っている。職員会議でも毎回話している。	職員は、入居者とのかわりについて、尊厳を持って対応するように努めている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、排泄や入浴等等同姓介助が良いと言われる場合には入居者に合わせて対応している。広報紙への写真の掲載や個人記録の取り扱い等家族に説明し、同意書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いや希望を傾聴し、本人が自己決定できる環境や言葉かけを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、ご利用者のニーズに合わせて個別に対応できる様に、チームで取り組む。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問散髪にきて頂いている、その人の希望に添って髪の長さやスタイルを決めて頂く。お化粧品やマニキュアなどできる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や材料によっては、入居者の希望にあわせて献立を替えている。野菜の皮をとったりといったそれぞれ残存機能に応じて手伝って頂く。	ホームでは手作り調理にこだわり、地元商店での買い出しや地域及び家族からの差し入れ野菜を使った食事を提供している。入居者と同じ食事を職員も摂ることで、味や量、形状等に職員の気づきが生かされている。入居者の誕生日には誕生会として祝い、「お弁当形式にしてどうか」等の職員の提案が行事食として特別感を生み出している。	入居者も座って出来る豆のすじ取りやテーブル・お盆拭き、おしぼり作り等出来ることで食に関わっている。食後の「天才！」「今日も上手かった！」の入居者の褒め言葉が職員のやりがいにつながっており、手料理での食の提供を今後を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事形態にあわせ、塩分、水分等はかかりつけ医の指示通りに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後できるだけ早くに口腔ケアを行う。その人の能力にあわせて支援を行う。誤嚥防止、義歯は每晚洗浄剤を入れてつけおきしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導やP交換を行う。残存機能を生かし必要な介助を行う。	排泄の状況は24時間シートと個人記録に残し、個々の目安としてパターンを把握し、声かけや誘導によりトイレでは排泄を支援している。昼・夜の時間帯や個別の状況により排泄用品を使い分け、動きにより夜間もトイレへの誘導等、家族の経済的な負担も視野に個別に検討して排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは、かかりつけ医に相談している。水分や食事に配慮し体操や歩行を行い、自力排泄便につながる様に努める。毎朝、牛乳・ヤクルトを飲んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴で、体調を見ながら声かけを行っている。菖蒲湯、柚子湯など季節によって入浴が楽しめる様にご支援している。脱衣所と浴室の温度差がない様に配慮している。	入浴は一日置きを目安に午前・午後一日を通して支援している。また、汚染時にはシャワーやそのまま入浴へと誘い、気持ちよく過してもらうよう心掛けている。冬場のヒートショックには特に注意している。入浴拒否や順番にこだわる入居者に時にはじゃんけんでの入浴順とし、入居者の真剣な表情が見られるようである。ゆず湯や菖蒲やも楽しみの一つとして提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のルーティンにあわせ体調に合わせて自由に休まれている。居室の室温や寝具は清潔に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や薬局と連携をとり指示通りの服薬を行う。全ての薬に関する情報を共有して服薬開始や症状の変化は、個人記録に記入している。個別で薬の形状を変えてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、干し柿作り、梅仕事、しそジュース好きな活動や役割を持って頂ける様後支援している。干し柿作りは、段階的に教えて頂きながら皆で手作りをした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で制限されているが、玄関先での日光浴や花見を中庭で行った。	外出が制限された中で、玄関先での日光浴や中庭で草花を愛でたり、専門医への受診を外出の機会としている。ユニットをつなぐ廊下を生活リハビリの場として行き来し、多目的ホールに腰を下ろして展示作品を鑑賞する等外出に代る活動等工夫している。また、外出に代るものとして花を育てる等、一日を飽きさせないよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は、希望に応じてお金を所持していらっしゃる。買い物には行けませんが、お年玉を渡されたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていらっしゃる入居者は、自由にお話しされている。希望があれば、電話ではなされる事もある。面会時絵を渡されたりされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心がけ、安全で安心してくつろげる空間作りを心がけている。季節の花、果物、野菜をテーブルに飾ったりしている。	コロナ感染症対策に共有空間の掃除や消毒を徹底し、リビングが密にならないようにテーブル席を増やし、入居者同士の間隔を空けるように工夫している。リビングから見える位置にプランターの花を配置したり、窓から野鳥の観察や外の景色を楽しんでいる。入居者と職員とでクリスマスツリーを飾り付けたり、廊下や多目的ホールは季節に合わせた力作(作品)を掲示する等職員の得意分野が生かされた空間である。また、外音もなく、入居者と職員との歌声が木霊し、明るい雰囲気を出したホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の意思を尊重して孤立されないように職員は目配り気配りを大事にして、ソファやテーブルの配置を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い馴れた物、馴染みの物、大切な物を活かし、ゆっくり居心地よく過ごせるような工夫をしている。家族の写真、俳句等を飾っていらっしゃる。	入居時に馴染みの物等の必要性を説明している。家族写真や書、俳句等の作品を飾り、入居者が使いやすい様にベッドや物品を配置し、必要な物があればその都度家族に連絡する等何でも相談しながら居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使用しているものには、名前を貼ってあり、入り口にはご本人の写真や名前を貼ってある。トイレなど「べんじょ」と大きく書いてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(南)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人の尊厳を大切に、最後までその人らしい生活がおくれるようご支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会、リビング中央に理念を掲げ日々共有し、実践している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、行事が減っているが、地域のゴミ当番等積極的に参加している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、子供会等施設に招いていたが、コロナ禍で出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や毎月発行される里便りに、ご利用者の様子、写真等を掲載し報告、毎回課題をもうけて、学んだ事の報告や意見交換している。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や、困り事等、市町村担当者に報告・相談している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、委員会をもうけ話し合いや全職員に向けての発信している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会で、虐待について繰り返し学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用されているご利用者様がいらっしゃる。又、これから必要とされるご利用者様もいらっしゃるのので、勉強しながら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて十分説明を行っている。不明な点は、いつでも傾聴し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、電話でのご意見を必要に応じて共有し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員勉強会で、職員の意見を聞いたり、都度に意見や提案に傾聴反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休等可能な限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の呼びかけ、最近の勉強会は、ズーム等で設備がなく参加できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月ごとのブロック会議にて、他事業所の活動の状況等を聞き事業所の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話やスキンシップにより、ご本人の理解者である関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見に傾聴し、ご家族が安心して頂ける様関係づくりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のご意見に傾聴し、可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての、ご意見や昔ながらの習慣等いろいろな事を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、里便りにて近況報告をしている。ご家族の思いに共感し支援にいかしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、出来ないので落ち着いたら支援に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に散歩したり、レクリエーションをして、皆で楽しんで頂く支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご本人、ご家族の事を気かけ、様子を伺ったり繋がりをもつようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に希望を伺い、ご本人の気持ちを大切にした支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、ご本人やご家族から傾聴した情報に基づき把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康観察や、声かけ等によりその日の状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見出し合い、現状に即したケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、個人記録に記入し職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族に確認をとり、介護用ベッドやマットを導入し、ご本人の安全、安楽な生活が送れるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、理美容院にきて頂いてカットしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診、急変時の相談、往診も受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と電話にて相談し対応してもらっている。必要があれば、受診・往診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡をとり、状況の把握や退院にむけての情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人(ご家族)と話し合い、又、かかりつけ医とも十分連絡を取り合って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用や心臓マッサージの訓練は、定期的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難経路を把握し、地域の方々にもお願いしている。食材や飲料水、消耗品の備蓄も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳をもった対応を心掛けている。職員同士でも注意しあえる関係を築いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする時は、必ず声かけし、ご本人の同意を得てから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ、ご本人の納得される支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の、身支度の支援、外出時の身だしなみにも気遣っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日は、好きな献立を提供、又、さまざまな行事に合わせた料理で季節感を味わっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事の提供や補食、又、好まれる飲物を提供し水分確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に義歯を外してもらい無理のない支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の様子観察での声かけ誘導や、時間をみて定期的に誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト等提供したり、運動の声かけをしている。医師と相談し排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後ご希望のタイミングで、入浴して頂ける様声かけしている。柚子湯等のサービスも行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息できるようベッドメイクしてある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のない支援と服薬確認、特に薬変更の時の症状変化の確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いのお願い、お盆拭き、おしぼり作り、洗濯物たたみ等。施設内散歩、水分補給も、好まれる飲物で対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為出来ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で、管理出来る方は、財布を持たれ、本や嗜好品購入できる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の方は、携帯電話を持っておられ、自由に電話しておられる。ご希望があれば、いつでも連絡出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や、ご利用者作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2脚設置し、思い思いに過ごせるようしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や写真等持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、名前や写真を貼り、解りやすいようにしている。トイレも、わかりやすいように「べんじょ」と書いてある。		

白梅の里 令和3年度.xls の互換性レポート
2022/2/16 22:43 に実行

このブックを以前のファイル形式で保存した場合、または以前のバージョンの Microsoft Excel で開いた場合、一覧表示されている機能は利用できなくなります。

再現性の低下

出現数

選択したファイル形式でサポートされていない書式が、このブック内の一部のセルまたはスタイルに設定されています。このような書式は、選択したファイル形式で利用できる最も近い書式に変換され	9
--	---

バージョン

Excel 97-2003